

孫の手通信



第24号

平成24年5月3日

玉川孫一郎と歩む会

TEL: 0475 (42) 2001 / FAX: (42) 6622

http://magoichiro.blog47.fc2.com/

玉川孫一郎の新しい町づくり

ご挨拶

これまでの4年間、町民の皆さまのご協力で住民協働による新しい町づくりに取り組んでくることができました。

新にこにこサービス、駅のエレベーターの設置、釣ヶ崎海岸広場の整備、東浪見小学校と一宮中学校の耐震工事、中学3年生までの医療費助成、妊婦検診14回の助成などの政策や、長年の懸案であった東浪見土地区画整理の解決などを進めることができましたのは、皆さまのご支援の賜物です。ありがとうございます。

子どもたちもお年寄りも町民全てが、ふるさと一宮町を「ここに生まれてよかった」「いつまでもここで暮らしたい」という町にするように力を尽くして参りました。これからもこの目標に向かって進んでいきたいと思えます。皆さまのさらなるご支援をお願いいたします。

ここで、新しい町づくりのために、これからの4年間で実現に向けて取り組む課題を提示させていただきます。

◎災害に強い町

東日本大震災の悲劇を二度と繰り返さないために、地震や津波に強いまちづくりに全力を挙げて取り組みます。

自主防災組織の育成と防災教育の充実

災害に対する安全は、建築物や避難道路などの施設設備だけでは十分ではありません。また、大規模な災害が発生した場合、消防、警察、町などの防災機関だけが全力を尽くしても、直ちに全ての住民を救出することは、困難です。そこで、それぞれの地域の実情に応じた共助の仕組みを強くすることがとても重要になります。自主的な防災組織の結成を図り、日頃から大災害に備え、訓練を積み重ねることが必要です。

このため、本年度から自主防災組織を設立するため助成金を交付します。そして、地域のつながりを強くし、平時でも子どもやお年寄りのより一層の安全・安心を支える仕組みをつくりあげます。

また、東日本大震災の大津波から、ほぼ児童全員が逃げ延びた「釜石の奇跡」に学び、学校での防災教育の充実を進めます。

新庁舎の建設

現庁舎は老朽化が進み、耐震診断の結果震度5以上の地震で倒壊する恐れもあります。津波も恐ろしいですが、毎年日本のどこかで震度6以上の地震が発生しているのです。

そこで現在の敷地内に、地震にも津波にも強い鉄筋コンクリート造4階建て以上の庁舎を建設し、高層階に防災センターを設置します。そして三階以上の階層を、高台への避難に時間がかかる地域の住民の皆さんの一時(いつとき)避難場所とします。

去る4月25日、千葉県では、3・11以降の最新のデータを使用した津波浸水予想図を発表しました。これによれば、現庁舎敷地は元禄地震(1703)規模を上回る、高さ10mの大津波が発生した場合も、浸水は予想されていません。最新のデータで、現庁舎敷地の安全性が保障されたこととなります。

一宮保育所の移設

手狭で一宮川に面している一宮保育所の移設は急務の課題です。一日も早く安全な場所に移設するとともに、ここに第2の防災拠点としての機能を持たせます。

土塁と防災林の整備

町全体を津波から守るために、県に強く働きかけ、地域の実情にあわせて土塁と防災林整備の促進と強化を進めます。さらに、公園と一時避難場所の機能を持つ築山公園の造成を検討します。

都市計画の見直しと避難路の整備

現在の都市計画は高度成長と人口増加を前提に50年前につくられたもので、高齢化の進んだ現代の実情にそぐわないものとなっています。避難路の充実や土地利用のあり方など、防災や平時の安全・

利便性などを重視した見直しを行い、人に優しく、災害に強い町づくりを目指します。

◎地域産業が元氣な町

豊かな自然環境と交通アクセスの良さをさらに生かして、地域産業の活性化に取り組みます。

上総一ノ宮駅東口の開設

上総一ノ宮駅前は、朝夕の通勤通学時の混雑、駅前や神門踏み切りの安全性の問題などをかかえています。

東口の改札口を開設することで、これらの問題を解決するとともに、海岸・里山・町内の歴史文化遺産を巡る観光ルートの基点とするなどして、町の活性化を図ってゆきます。

町内の企業からの寄付や、駅利用者の皆さまからの「ふるさと納税」を募って早期実現を目指します。

圏央道アクセス道路の推進

いよいよ圏央道が長南、茂原まで開通します。圏央道から一宮町までの長生グリーンラインと県道南総一宮線の早期開通を推進します。

道の駅の開設

今年度から、農家の若者グループによる、「道の駅実証実験」が開始されます。農業、商業、観光の拠点として、道の駅の開設を目指します。

(裏面につづく)

出陣式のご案内

玉川孫一郎の出陣式を下記のとおり開催します。

皆さまのご来場をお待ちしています。

日時 5月8日(火) 午前10時から

場所 駅東口すぐ(一宮町一宮 2559-4)
TEL: 0475(42)2001/FAX: 0475(42)6622



※前号で日時の記載に一部誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

(地域産業が元気な町) 続き

ポンポン船(川くだり観光船)の復活

ポンポン船は古き良き一宮のシンボルでしたが、6年前に廃止されました。2月に開催された「小学生と町づくりをかたる会」ではポンポン船の再開を強く要望されました。観光・商業などの活性化の材料として再開・活用に向け、取り組んでまいります。

地域でお金がまわる仕組みで商工業を応援

太陽光パネル設置事業、住宅リフォーム事業などの補助金対象事業を地元業者に限定したり、地域振興券、トマトカードを納税に利用するなどして、地域でお金がまわる仕組みをつくり町内の商工業を応援します。

がんばっている農家を応援します

農業は自然環境を保全する上からもきわめて重要な産業です。町の基幹産業である農産品の安全安心のPRを強化し、特産品の販路開拓や地産地消の推進で、がんばっている農家を全力で応援します。農地の保全のためには、遊休農地を町が借り受け市民農園として、希望する皆さんに貸し出ししたり、半農田舎暮らしの支援PRなどを進めます。

また、新規就農者を誘致するために、農地取得要件の引き下げを検討します。

猪・ハクビシン・アライグマなどが出没し、タケノコなどに重大な被害が出ていますが、有害鳥獣対策を強く進めます。

自然環境の保全

一宮町の魅力はなんといっても豊かな自然環境です。大塚実基金の活用により、町民の皆さんにもご協力いただいて海岸環境の保全活動を進めます。また、町内外の児童生徒に農業を体験する機会を提供するなどして、教育との連携を進めて、町全体で農地・自然環境の保全に取り組めるように支援します。

◎楽しく子育てができる町

少子化に悩んでいる外房で、唯一わが町は子どもの数が増えています。大変うれしいことです。将来の町を支える子どもたちのために、子育てしやすい環境、教育環境を整えます。

長生病院に産科を設置し、小児科を充実

地域に産婦人科や小児科が少なく、夜間子どもさんの具合が悪く

なつたとき救急車は千葉市や原市へ受け入れてもらっています。そこで、長生病院内の市町村が協力して長生病院に産科を設置し、小児科を充実します。

保育園の充実

一宮町には、幼稚園がありません。そこで、幼児教育と保育を統合した子ども園を設置します。また、第3子の保育料も完全無料にして、安心して子どもを生み育てる環境を整備します。

高校3年生まで医療費を助成

昨年、中学3年生までの医療費の助成を実現しましたが、現在実施している所得制限を撤廃します。そして4年以内に高校3年生までに延長します。

中学生の海外研修支援、東浪見児童公園の設置

明日の一宮町を担う子どもたちからの要望を受けて、必ず取り組みたいと考えています。

一宮商業高等学校の存続支援

中学校卒業生数の減少により、近い将来の長生・夷隅地区の県立高校の再編、統合が懸念されます。歴史ある一宮商業高等学校はこれからの一宮町の町づくりには重要な存在です。関係者と協議して、存続支援に取り組んでいきます。

また町、町民が学校を支援すると同時に、学校、生徒たちにも町の商業・観光・農業などの発展に協力してもらうような、相互協力の仕組みづくりを進めていきます。

大学生への奨学金制度創設

OECD加盟国で大学の授業料が有料で給付制の奨学金が無いのは日本だけです。現行の返済型奨学金は、月額10万円を4年間借りれば、利子も含め650万円も返済が必要になります。未来の一宮町を担う子どもたちが、経済的な困難で学ぶ機会を失われないように、返済の必要のない奨学金制度を創設します。

補習講座の開設

学力向上を目指して、小中学生の補習講座を開設します。大分県の豊後高田市では、市民が講師になって子どもたちの学習を支援する「学びの21世紀塾」が大きな役割を果たしています。こうした仕組みを、わが町でも作っていききたいと思えます。

図書館・児童館の開設

子どもたち、お母さんたちが集える図書館・児童館を開設します。



◎生き生き安心 住み続けたい町

お年寄り、子どもの安全・安心の強化

少子高齢化社会を迎え、地域でお年寄り、子どもを支えあい見守る仕組み作りが必要になってきました。そこで今年から、お年寄り、子どもさんが、安心して生活が送れるように、地域で支援する「地域支援ネットワーク」事業を進めてまいります。町役場や区長さん、民生委員、老人クラブ、協力事業者、ボランティアなどでネットワークを構成し、高齢者、子どもさんたちを見守ります。

病気の予防・健康づくりを支援

保健師を増員し、検診と指導を強化して、病気を予防します。また、積極的な活動を展開している体協と連携してスポーツによる健康づくりを推進します。これによって、医療費の削減を図り、国保税の引き上げも防ぎます。

また、高齢化の進展により、空き家が増えています。そこで、住み替えを促進するために維持管理が困難になった高齢者のお住まいの賃貸売却をサポートして、町内での住み替えをサポートします。

◎住民が主人公の町

住民協働の町づくり

私は、情報公開と住民参加を重視した住民協働の町づくりを目指してきましたが、これをさらに進め、シニアの知恵と若者のアイデアをどんどん取り入れてゆける仕組みを作ります。

自治基本条例の制定

そのため、住民自治の理念や住民参加の仕組みを定めた自治基本条例を制定します。町の憲法とも言うべき重要な条例なので、時間をかけて、広く議論をして制定したいと考えています。

ボランティアセンターの充実強化

4月2日、一宮町ボランティアセンターが社会福祉協議会の2階にオープンしました。町には、様々な分野で多数のボランティア団体が活動しています。これらから会議室が欲しい、お互いに情報を発信し、活動を交流する場所が欲しいという声が町に多数寄せられ、このたび実現したものです。活動の拠点として、ボランティアセンターの充実強化を図ります。

もっと親しみやすい町役場

町民の皆さまの声を受けとめ、町づくりに生かすために、もっと親しみやすい町役場を目指します。